

社会福祉法人幸ヒューマンネットワークの活動をご紹介します

ぬ

く

も

り



ハイライト：

- 社会福祉法人設立10周年を迎えることができました。
- 法人のこれまでのあゆみをご紹介します。
- みゆき作業所は30周年を迎えることができました。
- 一問一答インタビュー

この10年を振り返る…

新規会員募集中です。

社会福祉法人設立10周年にあたって…



社会福祉法人「幸ヒューマンネットワーク」は、今年で10周年を迎えることができました。

当法人は、精神障害者が地域で生活するための支援を目的として、町内会や民生委員等の地域の皆様の協力で、2005年に設立されました(前身の市民団体「幸ヒューマンネットワーク」は、精神障害者が暮らしやすい町づくりを目標にしていた)。私は、地域の活動

が精神障害者が地域で生活することを支える土台には「精神障害者は人間である」との意識が必要と考えています。また、設立当初より、活動の中心となる職員自らが、法人の運営についても中心に担っています。

その年に、障害者自立支援法(現在は、障害者総合支援法)が、障害者の「保護」から「自立」へ向けた支援のために成立しております(将来は、介護保険への統合が視野に入っている)。

幸区では、当法人も含めて、様々な団体、個人が長年にわたり、精神障害者の地域での生活支援に関わってきました。しかし、障害者自立支援法が施行されて以降、その活動力が低下しています(それにはいくつかの理由があるのですが)。一方、最近では、精神保健福祉の分野でも「株式会社」が、参入しております。特に、就労系では多数の事業所があり、地域の精神障害者の就労に向け多様なサービスの提供が可能となっています。それは同時に、サービスの提供者間での「競争」が激しくなることを意味しています。つまり、これからの精神保健福祉分野では、今までとは違った精神障害者活動の提供が求められています。今後、精神保健福祉でも、一層市場原理の導入が促されるでしょう。それは、精神障害者が地域で生活することに必要なサービスの向上につながるでしょう。ただ、良い面ばかりではありません。「効率と福祉は利潤の追求と相容れない、職員の労働環境にゆとりが乏しくなり心身への疲弊が増大する」との批判もあります。精神保健福祉でも市場原理が事業の活動の原則となりつつある現在だからこそ、人と人とのつながりを大切にして、当法人は運営されていきます。当法人の活動へ、皆様の一層のご協力、ご支援をお願いします。

理事長 大野直規

目次：

社会福祉法人設立10周年にあたって	1
幸ヒューマンネットワークのあゆみ	2
みゆき作業所開設30周年特集	3
10年をふり返って一問一答	4
後援会「みゆき会」会員の募集について	4
感謝状の贈呈について	4
勤労功労者の表彰について	4

社会福祉法人幸ヒューマンネットワーク これまでのあゆみ

社会福祉法人幸ヒューマンネットワークが発足して今年で10周年を迎えました。おかげさまで多くの利用者の皆様、関係機関の皆様に支えられ成長することができました。ここでは社会福祉法人化以前の歴史も交えこれまでのあゆみをご紹介します。

成り立ち 幸ヒューマンネットワークの誕生



平成2年、川崎市幸区で「精神障害者が暮らしやすいまちづくり」を考え、グループホーム設立に向け地域の精神保健福祉団体が集結し、準備委員会を結成。平成3年、市民団体「幸ヒューマンネットワーク」設立。幸区最初のグループホーム「ヒューネット幸」を開設しました。

町内会や社会福祉協議会の役員、民生委員、あるいは商店街の会長や不動産店などに相談をし、運営の協力を求めていく中で「幸ヒューマンネットワーク」はまちの人たちの支えで作られている団体となりました。そして、様々な角度から利用者の皆様のことを考え、みんなが暮らしやすい明るいまちづくりを目指し、平成17年5月に市民団体～当時のロゴマーク～から社会福祉法人となり新たなスタートを切りました。

幸ヒューマンネットワーク 誕生後のあゆみ

平成3年：市民団体「幸ヒューマンネットワーク」設立。

幸区最初のグループホーム「ヒューネット幸」開設。

平成8年：地域作業所「コミュニティー・プラザみゆき」を開設。

平成14年：神奈川県精神保健福祉協会会長賞受賞。

平成15年：構成団体であった「みゆき作業所」の運営団体となる。

平成17年：社会福祉法人格取得。

「社会福祉法人幸ヒューマンネットワーク」設立。

法人設立記念式典及びみゆき作業所開設20周年記念式典実施。

「みゆき作業所」が小規模通所授産施設として認可。



平成18年：相談支援事業所「ヒューネット幸」開設。

障害者自立支援法施行と共に3か所のグループホームが「共同生活介護・共同生活援助ヒューネット幸」の一事業所に統合。一事業所内のユニットとして「ヒューネット幸」「パオ幸」「シャローム幸」は継続する形となった。

平成19年：「コミュニティー・プラザみゆき」が地域作業所から地域活動支援センターB型へ移行。

「みゆき作業所」が小規模通所授産施設から地域活動支援センターB型へ移行。

平成20年：「コミュニティー・プラザみゆき」と「相談支援事業所ヒューネット幸」が同時に「りっぷる」と名称変更。事業も地域生活支援センター業務に統合し、通所支援と相談支援事業を「りっぷる」内で一体的に展開。

地域活動支援センター「E型ヒューネット幸」開設。（後に川崎市ふれあい支援センターヒューネット幸と名称変更）

平成22年：「共同生活介護・共同生活援助ヒューネット幸」内のユニットに「ターフェル幸」を開設。

地域活動支援センター「かもみいる」を開設。

平成25年：地域相談支援センター「あんさんぶる」を開設。



法人ロゴマークを一新。

平成26年：障害者総合支援法により「共同生活介護・共同生活援助ヒューネット幸」は「共同生活援助ヒューネット幸」へ。

「川崎市ふれあい支援センターヒューネット幸」閉鎖。

平成27年：「社会福祉法人 幸ヒューマンネットワーク設立10周年記念式典」実施。

みゆき作業所が開設して今年で30年になるのを記念して、10年以上にわたって支えていただいたみゆき作業所元職員である田中千恵子さんに当時の思い出をふり振り返りながらお話を伺いました。

地域で働く みゆきでの日々

たまたま地域で求人を見つけたのがきっかけで入りました。元々障害の分野で仕事をしていただけではなく、そのためみゆき作業所に来てから新しく学ぶことが多かったです。作業所のことや、利用者(当事者)自身のことは直接ご本人さんから教えていただきました。皆さんとても親切で優しく教えてくれたので作業所に勤務することはとても心が落ちつく時間となりました。利用者同士も仲が良かったので作業所内での様々なやり取りに癒され、当時、家事と育児で疲れていた心をリフレッシュすることができました。

地域とのつながり



みゆき作業所と地域とのつながりが特に大きいものがバザーでした。当時は『ふれあい福祉バザー(現メルシー祭り)』と言って、バザーの実行委員を設立して行っていました。栗田病院の作業療法士や幸区の患者会、保健福祉センターのケースワーカーや地域のボランティアグループが協力を

をして土日両日開催の大規模なバザーを行っていました。販売品も地域からお寄せいただいたバザー品をはじめ、地元朝市の野菜や、当事者が作成した七宝焼きの小物など多岐にわたっていました。幸区という地域のつながりを大切に活動してきました。当時のバザーの売り上げはバスハイク旅行に還元し、事業所の区別なくバザーにかかわった関係者全員が参加してとてもにぎやかなものでした。

また地域の方からたくさんのリサイクル品を寄せていただいたため、メルシーというリサイクルショップを開設し、新しい作業として作業所に通う利用者の働く場を提供できるようになりました。

大変だったアルミ缶回収

町内会からアルミ缶の回収を仕事として取り組まないかとお声かけがありました。しかし実際に作業を開始すると思った以上に大変でした。アルミ缶を確保するために朝早くから近隣のごみ収集場所にアルミ缶を集めて回らなければならない、ホームレスに間違えられるようなこともあり。近所のママ友さん達のごみ集積場所の近くで井戸端会議をしていたときには、自分とわからないように帽子とサングラスをして回収したこともあり。次第に地域の方々への理解が広まり、町内会の皆様他、多くの方がアルミ缶回収に協力してくれるようになりました。今ではみゆき作業所の主要な作業の一つとなっています。



インタビューを終えて

一時間にわたってお話を伺わせて頂きありがとうございました。現在でもみゆき作業所では地域とのつながりを大事に作業を行っています。導入期大変だったアルミ缶回収は今では町内外の皆様から協力をいただくほどになりました。回収作業で得た売り上げは利用者の工賃の主な収入源となっています。



みゆき作業所元利用者S・Y様より寄稿 「私とみゆき作業所」

みゆき作業所が三十周年を迎えたことにお喜びを申し上げます。又、幸ヒューマンネットワークの法人設立十周年合わせてお祝い申し上げます。

さて、私はみゆき作業所に初めて足を運んでから二十年弱が経ち、ボランティアとしては十年が過ぎました。みゆき作業所に通所していたころは様々なことをさせていただきました。リサイクルショップの販売員の作業、料理作りや自主製品づくりの作業など、今まであまり経験できなかったことをみゆき作業所ですることができたのでよかったです。

現在はボランティアとしてアルミ缶の回収を手伝っています。近所の方も好意的にアルミ缶を集めてくださり、そのことが自分自身の励みにもなっていると実感できるので、今後も続けていきたいと考えています。

みゆき作業所元利用者 S・Y



○当時の作業風景
マッチ箱(内職)の組み立て作業



○現在の作業風景
はし置き(自主製品)づくり

勤労功労者インタビュー 「法人との10年を振り返って…」

今回のぬくもり40号では、幸ヒューマンネットワーク10周年記念に関する記事を中心にお送りしてまいりました。社会福祉法人化または法人化する前進の市民団体の時から、10年以上にわたって活躍している勤労功労者の中からこれまでの10年、これからの10年を思いながら代表し、勝呂ちひろ・千葉さおり両職員に一问一答インタビューにお答え頂きました。

Q1. 法人との関係を教えてください。

勝呂：入社10年目。初めての就職先です。

千葉：職員として勤務して10年になります。

Q2. 10年前の幸ヒューマンネットワークまたは所属事業所はどんな様子でしたか。

勝呂：当時のパオ幸は、夏は全く効かないエアコンとの戦い。そしてグループホーム職員恒例、体重が3キロ増加しました(笑)。

千葉：当時は「コミュニティー・プラザみゆき」という名前の作業所でした(現りっぶる)。今より利用人数も少なくゆったりとした時間が流れていたと思います。

Q3. 10年を振り返ってどんな月日でしたか。

勝呂：早いですね…この間に結婚、2度の出産と私にとっての大きなライフイベントを法人職員、利用者の皆さん、そして当法人に関わってくださる関係者の皆様に見守っていただいた気がします。すごく感謝しています。

千葉：法人化した年に入職し、あっという間の10年でした。

Q4. 特に記憶に残っているお仕事はなんですか。

勝呂：ホームの旅行で湯西川温泉に行ったこと。みんなで囲炉裏を囲んでの夕食は趣きがあり、よい思い出です。

千葉：新規事業所立ち上げに走り回っていた頃が一番記憶に残っています。今では当初より事業所の数も増えて、にぎやかになりました。

Q5. 次の20周年に向け、法人または所属事業所をどんな場所にしていきたいですか。

勝呂：現在りっぶる職員としてお仕事させて頂いていますが、本当に多くの方がりっぶるに来てくれるようになりました。さらに10年後、ひとり一人が「自分にとって大事な場所、そして自分以外の誰かにとっても大事な場所」ということを自然に感じ、自然と大切にできるそんな場所になっていたら嬉しいです。

千葉：現在は主に法人本部の仕事をしているので、20周年に向けてより良い法人運営を心掛けていきたいと思っています。

幸ヒューマンネットワーク後援会「みゆき会」のご紹介

私たち社会福祉法人幸ヒューマンネットワークの活動を陰に日向に支えてくださっている、後援会「みゆき会」についてご紹介いたします。みゆき会は平成17年5月、社会福祉法人幸ヒューマンネットワークの活動を支え、精神保健福祉への理解の輪を広げることなどを目的に発足いたしました。

平成3年から市民団体として活動してきた幸ヒューマンネットワークは、その活動を様々な形で会員の皆様に支えていただけてきました。法人化を実現することが出来たのも、会員の皆様の大きな支えがあったからこそのことでした。

しかし社会福祉法人としては会員制度を継続できないため、法人設立と同時に後援会へと形を変えることとなり現在に至っています。

平成27年4月現在の会員数は76人を数え、法人主催の「チャリティー歌と踊りの祭典」やみゆき作業所主催の「メルシーまつり」等、法人関係の各種イベントにご協力をいただいているほか、講演会などのイベントも主催されております。

これまでの法人へのご協力にあらためて感謝申し上げますと共に、これからも幸区の精神保健福祉の発展をめざし、共に活動していきたいと思っております。

会員募集のお知らせ

みゆき会では今年度も会員を募集しております。「地域に精神障害者が暮らしやすい町づくり。」そのためには、皆様一人ひとりのご支援が必要です。今後も後援会として幸ヒューマンネットワークを支援して参りますので、ぜひご入会・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○年会費 2,000円

○お問合せ みゆき作業所 担当:高橋 TEL044(511)5001

—感謝状贈呈—

社会福祉法人設立10周年に際して、当法人の発展に多大に尽力されました功績に対し感謝状を贈呈致します。

栗田正文 様(医療法人社団正慶会 名誉理事長) 金井弘年 様(学校法人金井学園 理事長)

—勤労功労者表彰—

勤続10年以上の職員を紹介するとともに、長年の貢献を表彰します。

田邊光一(みゆき作業所 施設長) 綿引悦子(シャローム幸 施設長) 風間和子(ヒューネット幸 施設長)
吉澤美香(あんさんぶる 施設長) 勝呂ちひろ(りっぶる 施設長) 千葉さおり(本部総務 りっぶる職員)
高橋直子(みゆき作業所 非常勤職員)

○編集後記

ぬくもり第40号を担当させていただきました広報部員の渡辺です。

ぬくもりの編集を通して、自分でも知らなかった幸ヒューマンネットワークを知ることができたと同時に、多くの方、地域に支えられていることを改めて実感しました。今後も続いていくつながら、そこに根付く支援をぬくもりを通してお伝えしていければと思います。 渡辺